

1. 意見提出者数 8名

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
1	<p>第3章まちづくりの方向性（政策の大綱）</p> <p>基本政策1 未来のふるさとを担う…大綱5行目学校教育では…</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育では子どもたちが「やってみたい」「知りたい」「なぜ？どうして？」というような知的好奇心を起点とし、ものや人とかかわりながら、自ら課題を解決していく探究的な学びを実現していきます。また、将来的に訪れるであろうA Iの時代を想定し、知的学力・機能的な学力はもちろんのこと、A Iでは実現が困難であろう情意的学力の醸成に力を注ぎ、相手意識を培ったり、ふるさとへの愛着、豊かな社会性を身につけ、心身ともに健やかに成長できる教育を充実していきます。 <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究県長野を打ち出し、中野市でも「TOKOTON（とことん）」を南宮中学校区で始めています。今年度は日野小、延徳小でスタートし、次年度より中野小、南宮中でスタートする予定です。※10/8に日野小での取り組みを県副知事、県教育長他が参観に訪れます。 数十年後には現在人間の行っていることの半分ほどはA I（ロボット）が担う時代となる予測があります。知識、理解、技能の大半をロボットが行いますが、心に関することはロボットには難しいという見解があります。予測不可な未来を生き抜くには情意的学力（心の学力）の醸成が不可欠であると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本政策1の課題中「『豊かな心』を育む教育の推進」、大綱中「心身ともに健やかに成長できる教育」で読み取ることとさせていただきます。 ○貴重なご意見としてお聞きし、具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。 <p>■なし（前期基本計画で検討）</p>	有賀 透
2	<ul style="list-style-type: none"> 目指すべき将来の姿で目標人口を37,500人以上としています。目標であるので現時点として問題は無いと思いますが、参考資料「中野市の2050年までの人口推計」で合計特殊出生率を上昇すると仮定しています。国の統計でもそうですが、大体、数値は下振れしており、上昇するには抜本的な改革（施策）がないと達成は困難に思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合計特殊出生率の上昇率につきましては、前回人口ビジョン策定時（R2年）と同様の考え方でございます。 ○前回人口ビジョン策定時のR7年の推計人口が「40,281人」 	土屋武俊

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
2	<ul style="list-style-type: none"> 今後、基本計画でどのようにしていくか、一緒に考えていきたいと思います。私の住んでいる地区の実情を見ると、楽観視できない状態であると考えます。 今回、初めて「中野市総合計画審議会」に出席させていただきましたが、審議会の趣旨について再度担当からの説明があればより理解できるのではないかと思います。 	<p>であり、R7.7.1 時点での人口が「40,123 人」であることを考えると、前回までの推計人口の考え方方が大きく外れていなものと考えられます。</p> <p>○目標を達成するための具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の部分で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○次回審議会であらためてご説明いたします。</p> <p>■なし（前期基本計画で検討）</p>	土屋武俊
3	<ul style="list-style-type: none"> 目指すべき将来の姿としての将来都市像「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」はとても清々しい気がします。これをもって中野市のイメージが膨らんで定住者が増えると良いなと心底願っています。 <p>【基本政策1 未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中野市には出産施設が2箇所もあることはとても強みだと思います。安心して出産できます。子育てについては健康福祉課でも手厚いフォローがあって素晴らしい事だと思います。が、家庭・地域・学校が連携して子どもの成長を支えるとは具体的にどんな事をするのか良くわかりません。例えば、年に数回親子で地元の野菜を使っておやきを作つて一緒に食べるとか？かつて私の子供が小学生の頃そんな事をして郷土料理に思いを馳せたことは、良かったのではないかなと思いました。 <p>【基本政策2 支えあい健やかに暮らせる健康長寿のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長寿ばかりを目的にしていても健康でなければ意味がありません。寝たきりで生かされてる状態ではとても幸せとは言えないと思います。そうならないためにもフレイル予防は大切なことだと痛切に感じます。 	<p>○具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進</p>	阿部 ひろ美

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
3	<p>・ところで自治会の保健補導員については、コロナ以後、役割も減り、あまり意味が無くなっているのではないかと感じます。そして保健補導員の会合で実施されてきた、簡単な体操などは、それこそ高齢者の方々の集まりで実施した方が良いのではないかと。</p> <p>・高齢者の方は、気力も時間もあるけれど、なかなか社会に出る場所がなく、一人寂しく在宅でぼんやり過ごす方も多いので、環境を整え、皆が集まる場を積極的に造り、交流の場を広げられたらいいのではないでしょうか。</p> <p>【基本政策3 賑わいと活力あふれるまちづくり】</p> <p>・中野市はやはり最終的には農業立国であり、農業を外しては中野市を語れません。しかし県内外の方々と話をすると、キノコ王国であることも果物生産が盛んなことも「知らなかった」と良く言われます。PR 不足なんでしょうか。小布施は知っているがその隣の町の中野市はよく知らないと。数年前まで開催していた「おごっそフェア」はこの中野市を PR するうえで大変効果的だったと思いますが、残念なことにキノコや果物販売があまりなされなかった。そして会場も野外でお天気に左右されてしまうのが残念でした。補助金が無くなるとイベントが続かなくなるのは、なんとも中途半端で残念だと思います。確かに莫大な費用は掛かりますが、そこは中野市の広告費と位置付けて続けて欲しい。</p> <p>・以前（20～30 年前）中野市で開催された食べ物フェスタ（？）でしたか、農家さんたちが自分たちの自慢の野菜や果物、花きなどを軽トラに積んで中野中心市街地の道路上で、一堂に店を出して露店販売していたのが思い出されます。あれは画期的なイベントだったと思います。そんな農家さん、生産者の顔が見える販売と言うのはとても良い事だと思いました。</p> <p>・先日上越市の方とお話しする機会がありました。彼女はドライブがてら北信五岳道路を通って立ヶ花のトンネルを抜け、オランチエを目的にいらっしゃるそうです。新鮮な果物や野菜を購入できるのがなくてたびたび訪れるそうです。このようにいきいき館やオランチエは近隣の都道府県の方々にも徐々に認知度は広がってきていますが、オランチエは特に駐車場不足がネックだと思います。農協さんと一緒に協力し頑張ってほしいと思います。</p>	<p>めしていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p>	阿部 ひろ美

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
3	<p>・また、若者に話を聞くと、やはり中野には映画館とか遊興施設がほとんどなくてつまらないと良く言われます。都会ではないのだからあれもこれもとは言えませんが、せめて映画館でもあったらよいのにと思います。ソソラホールで定期的に映画上映などはできませんでしょうか？</p> <p>【基本政策4 故郷を学び育つ文化のまちづくり】</p> <p>・伝統文化の継承は大切なことだと思いますが、今回の祇園祭などは形骸化している気がします。住民の理解が深まっていないせいか、中町で若殿さまが出なかったというのは前代未聞と言うかかなり衝撃を受けました。あれはこの暑い夏に実施されますが、時間帯を変えて行った方が良いのではないかと思います。只々馬に乗って若殿さまが町内を練り歩くだけで、観客は暑さのせいで外には出ておりません。夕方から夜に実行するのはいかがなものでしょうか。ショーンショーン祭りと日程が近いためか、今一盛り上がりに欠けてる気がします。ショーンショーン祭りは大変盛況で、中野市のどこにあんなに人がいるのかと思うくらい、大勢の人たちが繰り出して活気があります。これはぜひ続けて欲しい。</p> <p>・それからそもそも中野市の江戸時代末期からの中野一揆や山田家～中野県庁ではなく長野県庁になってしまった由来など、市を挙げて詳しく歴史を市民に説明し、中野市民としての誇りを持ってほしいと思います。なぜご天領だったのかも恥ずかしながらよく知らない私です。是非そのような中野市の歴史を紹介してほしいものです。</p> <p>・中野市には著名な方々が排出されています。高野辰之、中山晋平、久石譲、牧秀悟に、宮島礼吏などなど。高野さんや中山さんについては記念館を建てて終りと言うのではなく、それに因んだイベントを小さくではなく年に1度くらい、セイジオザワ松本フェスティバルの様な大々的なイベントにはできないでしょうか。音楽にまつわる、例えばオペラなど。まあこれは大それた夢ですが、叶えられるなら素晴らしい事だと思います。</p> <p>【基本政策5 安心・安全な住みよいまちづくり】</p> <p>・都市基盤施設の老朽化に伴う維持管理や長寿命化は、埼玉県のようにならないように適切かつ早急に進めてほしいと思います。</p>	<p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。具体的な施策につきましては、今後</p>	阿部 ひろ美

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
	<ul style="list-style-type: none"> 一つ気になるのが、立志館高校と中野市役所前の通りです。夜になると主要幹線道路なのに、街灯の電球が切れているのか、点灯していないくて大変暗いのです。若い高校生も通行しますし、防犯の為にも早急に点検をし、明るく道路を照らしていただきたいと思います。 また街路樹は、緑で心和むものではありますが、市街地では、車で道路に出る際、街路樹が邪魔をして視界を遮り、非常に危険だと思います。特に信金中野支店から道路へ侵入する際は、身を乗り出して確認しないと良くわからない時があります。何とかしてほしいです。 安心安全なまちづくりに欠かせないのは、除雪体制です。冬場は特に道路わきに寄せた雪が邪魔をして、歩行困難になる場合が多いです。せめて通学路だけでも排雪を常に行うなどの配慮が欲しいです。 <p>【基本政策6 市民参加と協働のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急激な少子高齢化については頭を抱えてしまう問題です。なぜ高校生は卒業と同時に大学進学で県外(特に都心部)へと流出し学業を終えても帰ってこないのか。それはやはり地元に都会と肩を並べるほどの、大企業もなく賃金格差があるからでしょう。 また女性にとっては、田舎はまだまだ閉塞感と女性軽視の風潮が色濃く残っているたまだと思います。そのために男女共同参画があり、啓発活動をしているわけですが、先の男女共同参画審議会にある方の発言がありましたが、小中高校ではすでに男女の格差が無くなり生徒会長なども女子が多くなってきているのに、社会に出ると、例えば市会議員などは女の出る幕じゃないとしてあまり好意的に受け止められないとか、食事洗濯掃除はまだまだ女の領域と言う風潮が強いのは残念です。そこで、市民の意識改革をさらに推進してほしいと思います。 <p>【第4章 土地利用構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高社地域、南部地域、豊田地域、中野平地域と市街地及びその周辺地域に区分しての基本方向はなるほどと感心しました。自然豊かで農業環境が充実しているのは良いのですが、耕作放棄地が目に留まり、草ぼうぼうとなっている田畠を見ると、しかも見かける 	<p>「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の策定を進めていく上で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○貴重なご意見として、担当課とも共有いたします。</p>	阿部 ひろ美
3			

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
3	頻度がとても高いと言うのは、大変残念です。特に田麦方面農面道路周辺は景色も良いのに、草が生い茂り林に変化し、最終的に森になってしまふのではないかと言う不安を感じられ、何とかできないものかと思います。先人たちが苦労して耕してきた畠を受け継いで行って欲しい。以上感じたことを書かせていただきました。	■なし（前期基本計画で検討）	阿部 ひろ美
4	<ul style="list-style-type: none"> 目標人口について、今から8年後には、2,600人程が減になるとことで、危機感を感じました。 中野市はエノキなどの産業で、外国籍の方々、中国、ベトナム、フィリピンなど、2.17%をしめると以前聞きました。外国人の方も、お客様ではなく、住民として日本に暮らすことを選んでいる方もおり、中野市の中にも、多種多様な人がいることにも、少しふれてもいいのかなと感じました。 	○基本政策6の大綱中「本市に暮らす人々」で読み取ることとさせていただきます。 ■なし（前期基本計画で検討）	徳竹佐織
5	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想であるので、総花的な表現となることは理解しているが、第2次総合計画の基本政策6項目と一字一句同じであるのは如何と思う。（市長も交代しており、表現方法に一工夫必要と思う） また、8年後の将来像を目指すものであるので、具体的な項目を織り込むことは難しいところもあるが、生成AI・自動車の自動運転・空飛ぶクルマ（ドローン）など近未来に普及が見込まれることを織り込んでもよいのではないか。 将来都市像も20年前から変わらないのも如何と思う。 	○第2次総合計画の基本政策を継承しているため、主題の政策名は同じですが、課題・大綱は更新しております。 ○今後「前期基本計画」の部分において、時代に合わせた施策を策定して参りたいと考えております。 ■基本政策6の大綱に「AIをはじめとする幅広い分野での～」を追加。 ○平成17年の「新市まちづくり計画」で定めて以来、普遍的・永続的な将来都市像として引き継がれてきており、今回の第3次総合計画を策定する際も、その意思を継承していくこといたしました。	酒井 久

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解	■基本構想への反映	委員名
6	<ul style="list-style-type: none"> お疲れさまです。今日はどうしても出席ができず、すみません…。でも、どうしても伝えたいことがあって、文章での共有をお願いしました。もしかすると、これは私だけが感じていることかもしれません、他の委員のみなさんにも、ひとつの視点として聞いていただけたら嬉しいです。 私が、地域おこし協力隊の移住定住担当だったこともあり、基本政策5の大綱について違和感を感じました。 他の基本政策の大綱には、それぞれの政策項目にバランスよく触れられているように見えたのですが、基本政策5に関しては、基本政策の移住定住・住環境の「住環境」の部分にしか触れていないように感じました。 もちろん、安全・安心な環境づくりはすごく大事ですし、市がそれに向けていろんな努力をしてくれていることは、普段の暮らしの中で私も実感しています。だからこそ、今の文章だけでは、ちょっと物足りないというか、もったいないなと思ってしまいました。 この政策の中には「移住定住」や「循環型の構想」についても書かれているので、そこにも少し触れられると、全体としてのメッセージが伝わりやすいんじゃないかな、と感じています。 自分が移住定住担当だったのでどうしても気になるのが、転出者数が増えているという今の現状について、なにかしら触れられていてもいいんじゃないかな?というところです。もちろん、大学がないことや転勤など、ある程度仕方のない理由もあるとは思います。でもそれ以外にも、出でていってしまう理由があるとしたら、そこに少しでも光を当てていくことも、定住に向けた施策では大事なんじゃないかな、と思っていて… 今の文章だと、インフラ（物理的な整備）に関する内容がメインになっているように見えるのが、気になりました。 それと、ちょっと話がそれるかもしれないのですが、地元の方が「中野市なんて…」みたいな言い方をしているのをよく耳にします。私が移住を考えていた頃から、地元の人たちがそう言っていることを聞いていました。 私には明確な目的があったので気にはなりませんでしたが、普通の人がそれを聞いて、果たして住みたいと思えるだろうか?と、考えてしまい…。 私は中野市の良さを感じていますし、きっと皆さんも地元に対するプライドや想いを持 		<p>■基本政策5の主題（）内を「移住定住・住環境」に変更。</p> <p>■基本政策5の大綱に「快適で住みよい循環型社会の構築を目指して、」を追加。</p> <p>■基本政策5の課題に「急速な人口減少が進んでいるため、交流・関係人口の拡大が求められているほか、移住定住を促進するための取組を進める必要があります。」を追加。</p> <p>■基本政策5の大綱に「本市の魅力を発信し、移住定住促進のための施策を充実することで、移住・定住・交流・関係人口の拡大に努めます。」を追加。</p>	間嶋未希

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
6	<p>っていると思うんです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ、ちょっと遠慮しすぎているというか、「中野市のイイところ」がうまく外に伝わってない気がして…それが本当にもったいないなって感じています。 ・基本政策5の「定住環境」の部分も、今ある課題を書くだけじゃなく、「ここに住みたい！」って思えるような、明るい未来をイメージできるような言葉があると、もっと伝わるんじゃないかなと思っています。 ・行政文書なので、言葉の使い方に制約があるのもよく分かっていますし、職員の方々が中野市を良くしようと日々努力されているのも、感じています。だからこそ、伝え方の工夫で「思い」がもっと届く文章になると素敵だな、と感じました。 ・長くなってしまってすみません。参加できない中、このようにお時間をいただき本当にありがとうございます。少しでも皆さんの議論のヒントになればうれしいです。会議が実りあるものになりますように。一員として、心から願っています！ 	○移住・定住者が増えるような具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の部分で、委員の皆様と共に考えて参ります。	間崎未希
7	<p>～間崎委員のご意見に関連して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の素案では、移住・定住の促進や関係人口の創出については、基本政策3に記載がありますので、そちらに移すということでしょうか。（素案を拝見してそのように感じました。社会情勢の変化に応じて、施策の位置づけが変わることはあるかと思います。） ・なお、基本政策の6項目は、基本的には現行計画を踏襲することですが、現行計画の基本政策5は、（定住環境）となっていたり、（移住定住・住環境）となっていたりします。合わせてご確認いただければと思います。 ・基本政策5に「環境負荷を抑え、」との記述はありますが、間崎委員ご指摘のとおり、気候変動への対応や脱炭素・循環型社会の構築といったことが、読み取りづらい（弱い）ように感じました。 ・これらは、今後も様々な分野で取り組んでいかれると思いますので、課題や取組の方向性などを示していただくとよいのではないかと思います。 	■本参考資料7pと同様に対応いたします。	三森和子
8	<p>1 質問</p> <p>(1) 合計特殊出生率が置換水準（2.07）を大きく下回っている中、何を根拠に上向くと判断されたのですか。是非、お聞きしたいです。</p>	○合計特殊出生率の上昇率につきましては、前回人口ビジョン策定時（R2年）と同様の考え方でございます。	小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>2 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次総合計画（素案）は、第1回目審議会資料3・4（第3次総合計画策定方針や同（素案草稿））から、かなり変更されていますが、その理由は何でしょうか。次の第3回審議会でお聞かせください。読み返しができるようにメモでいただきたいです。 <p>3 感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回目の審議会も第1回目と同様の感想です。第1回目の感想を添付資料Aとして改めて添付しました。要は一から作り直しが必要です。 <p>4 具体的な施策（事業）の提案など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次総合計画基本構想（素案）に対する主要なコメントは、添付資料Bにまとめました。次の3回目審議会では是非取り挙げていただきたく思います。市長の諮問に対する答申に直接影響します。 <p>【添付資料A】第1回まちづくり審議会の感想（その1）R7.5.30提出</p> <p>1 人口減少の切迫感</p> <p>(1) 世界人口は、2100年頃にはピーク100億人に達した後、次第に減少を始めるといわれています。また、日本では平成20年（2008）に人口ピーク（1.2億人）に達した後、減少に転じて早や17年。国は過疎対策や地方創生事業などもやりましたが、地方の“大都市への人口流出”に歯止めがかからず、地方の過疎化は深刻化するばかりです。その上、今では人口減少も加わり、地方都市の消滅可能性が高まっていますが、総合計画の素案からはこうした切迫感は伝わってきません。私の故郷（市街地から離れた集落）の空き家や不耕作地の増加をみればその切迫感は分かります。</p>	<p>○前回人口ビジョン策定時のR7年の推計人口が「40,281人であり、R7.7.1時点での人口が「40,123人」であることを考えると、前回までの推計人口の考え方方が大きく外れていないものと考えられます。</p> <p>○第1回審議会時はイメージとしてお出ししたものであり、その後府内検討委員会で内容を精査し修正いたしました。</p> <p>○対応いたします。</p> <p>■基本政策1の課題で「急激な」を追加。</p>	小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>(2) 日本の有識者の集まりである人口戦略会議（長野県知事もメンバーの一人）は昨年の『中央公論』2月号で「人口ビジョン2100」を緊急提言しましたが、それによりますと2100年には今的人口は半減し6,300万人、その4割は高齢者になると予想しております。人口減少に底が見えないことが気になります。この比率で当市の2100年の人口を概算すると、現在（2025年）4万人の人口は、2100年には半減し2万人ほどになります。けれども、第3次総合計画（素案）ではこうした環境変化に対するリスクへの言及はないし、市の将来に向けた財政収支分析もありません。</p> <p>(3) 当日資料「総合計画素案」のp3に「人口減少・少子高齢化が進み……」を踏まえた上でR8年度からの新たな総合計画を策定するとありますが、p8のまちづくり観点は、いわば、網羅的であって戦略対応型ではありません。これでは市民の理解を得て市民の総意として“持続するまちづくり”を推進する力にはなりません。このような意味あいから、本総合計画の素案は全面的に作り直しが必要だと思います。</p> <p>(4) 上記(1)、(2)、(3)以外にも、市のまちづくりへの課題は下記のような3件があります。これらの対処療法や網羅的な対策では埒があきません。抜本対策が必要です。</p> <p>A：先ず、農業委員会窓口の“地域計画”です。これはR7年3月末に完成したはずですが、第3次のまちづくり総合計画にとっても重要なテーマです。従って、まちづくり総合計画（市の最上位の計画）の観点から検証、見なおしが必要です。当市は農業立国ならぬ農業立市ですから。</p> <p>B：次に土地改良区の賦課金の問題です。これについても、まちづくりの観点から農基法や土地改良法、土地改良区の定款などの実情をよく精査し法の改廃も考える必要がありましょう。今や平成に続く令和の米騒動です。3度目は回避したいですね。農業を柱とする当市からNew Nakanoのイメージで県や国に協力要請したらどうでしょうか。</p> <p>C：近年多く見られるようになった獣被害も問題です。切り札の電気柵もあまり効果がないようです。原因には人間の自然開拓にあるようですが、これも農業立市の立場から県や国に提案し協力して行うべき課題です。</p> <p>2 終わりに</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想（その1）はこの辺で終わりとします。次の第2回審議会が開催された後に必要があれば感想（その2）をまとめたいと思います。私も“生きた心地がする故郷（郷土）” 	<p>○基本政策内で「少子化」、「少子高齢化」について触れております。</p> <p>○毎年度決算で市の財政力指数等を公表しており、それらを踏まえた上での予算計画を行っております。</p> <p>○総合計画は全ての施策を網羅した市の最上位計画という位置づけのため、網羅的計画であることはご理解ください。</p> <p>○具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の部分で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p>	小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>を子や孫に残したいと思っていますので、まちづくり総合計画の策定は丁度よいチャンスなのです。よろしくお願ひいたします。以上。</p> <p>3 補足（4点）</p> <p>(1) 後継者がいない田畠は5～6年もたてば原野同然となります。底の見えない我が国の人囗減少によって、多くの中山間地の田畠から成る当市の農業立地では急速な原野化は免れないでしょう。そこで、将来、原野化してしまった荒れた田畠を新たに農地として再開発するときのために、今のうちに、境界を人工衛星等を用いた測地法で再現する方策を考えておいたらどうでしょうか。</p> <p>(2) 第1回審議会当日の資料1（総括）や資料2（満足度調査）は結果が数値化されて表示されていますが、いずれも網羅的で、何が将来的に問題となるのか分かりません。手短かな解説が必要です。総合計画が分かりづらい理由はこの辺りにもあります。</p> <p>(3) 帰郷して10年程経ちますが、車も持たず、農機具も使わず、カマとクワだけの家庭菜園暮らしをしていると、高齢化し身体が弱ってきますと、病院や買い物に町までいくには、雨の日や雪の日もありますので、公共交通機関（ふれあいバス等）の有難みが分かります。また、過疎地の生活インフラ（上・下水等）、教育・消防・警察・医療制度の充実もよく理解できます。人口減少の中で、これらをどう確保するかが持続に直結することもよく理解できます。</p> <p>(4) 人口減少という未曾有の国難に対処するには新しい切り口が必要です。私は30年近くも故郷の活性化について考えてきましたが、新しいヒントとして北信濃ご出身の宮崎市定氏（M34年～H7年）の著書『宮崎市定全集21（日本方代）Ⅲ』（p328～442）を推奨します。</p> <p>【添付資料B】第2回審議会の感想（その2）R7.8.4提出</p> <ul style="list-style-type: none"> この第3次総合計画（素案）を何回読み返えしても戦略計画書としての策定趣やまちづくりの方向性は全く理解できませんでした。恐らく、その理由は、置換水準を大きく下回っている合計特殊出生率を安易に上向くものと仮定して目標人口を設定する姿勢にあると思われます。私には、単にあるべき論を示したに過ぎないという印象です。 		小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>・だから、6つの基本政策などは個別にみれば、否定する理由はありません。けれども、市の人口が減少し、税収も減少する中で、我が市が直面する環境変化の中で何にどう予算を配分し、中野市をどう持続させていくかが課題です。</p> <p>・こうしたことが読みとれない総合計画（素案）は、第1回目の審議会感想同様に総合計画（素案）は作り替えが必要だと判断せざるを得ません。</p> <p>・以下に各章毎に、特に気になったことを中心にコメントしておきます。</p> <p><第1章 総合計画のあらまし></p> <p>(1) p 2の趣旨説明は極めて分かりづらいです。読んだだけでは一般市民には理解し難いものです。一例を示せば、総合計画は市の最上位計画だとしながら、その下にどんな計画がぶら下がっているのか想像すらできません。</p> <p>(2) 市の立場と市民の立場を挙げておられます、このことは市と市民の分断を意味するもので、策定趣旨のところでいうべきものではありません。市と市民のベクトルが合わない原因となっています。下記(3)を参照ください。</p> <p>(3) 総合計画策定時の留意点を5ヶ、挙げておられますが、私には理解できません。これから策定に入るという意気込み感じられません。既にでき上がってような感じがします。以下に、留意点5ヶのコメントをしておきます。</p> <p>①目標を市民と共有…「緑豊かな…」はもう20年も前のこと、今は陳腐化しています。豊田村合併時には意味があったかもしれません、今や時代が進み、更なる8年には耐えられないでしょう。変えるべきです。</p> <p>②戦略的な計画…環境変化の分析や財政変化への言及もなく、とても戦略計画とはいえないものです。あるべき論です。</p> <p>③財政状況への対応…②と同様にあるべき論です。</p> <p>④誰もが計画達成度を評価できる…一般市民は日常的にまちづくり業務に従事している訳ではありませんから、数値で達成度を示されたからといって理解できるものではなく、</p>	<p>○「基本計画」内で「関連の深い分野別計画」をお示ししていく予定であります。</p> <p>○市と市民の分断を意図した文言ではございません。</p> <p>○平成17年の「新市まちづくり計画」で定めて以来、普遍的・永続的な将来都市像として引き継がれてきており、今回の第3次総合計画を策定する際も、その意思を継承していくことといたしました。</p> <p>○「基本計画（総合戦略）」、「実施計画」部分で対応して参ります。</p> <p>○ご意見として頂戴いたします。</p>	小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>市の担当者の解説が必要です。（補足：例えば、第1回目審議会資料1の出生数210人や合計特殊出生率1.5などはどう評価しますか？誰れもが評価できますか？）</p> <p>⑤国や県の政策と整合…未曾有の人口減少下では、国よりも地方市町村の方が変化に敏感になります。そんな中野市から課題の解決案を国や県に逆提案し、協力してやつたらどうでしょうか。受け身ばかりが美德ではありません。</p> <p>＜第2章 目指すべき将来の姿＞</p> <p>(1) p5に将来都市像とありますが、まちづくりを生かし「まちづくり像」などとしたらどうでしょうか。まちづくりが都市づくりに変わってしまった感じがします。将来都市像とするならば、何故都市かということを説明しておく必要があります。</p> <p>いずれにしても「緑豊かな…」は、車社会・ユビキタス社会の到来が現実となった今、自然と文明社会との調和が必要となることから、もっと別の表現にすべきです。以下に、一例を示しておきます。</p> <p>例えば、第1回目の審議会資料（資料4）の第3次総合計画（素案草稿）p16にあった、「中野市デジタル田園都市構想総合戦略」を修正し、まちづくり像を「田園都市中野市」としたらどうでしょうか。田園は、自然、つまり一次産業を示し、都市とは、公共施設や商店街のあるまちの中心部を示し、自然とまちの中心部とが調和するまちづくりともいえましょう。ゴロもいいし私が高校生の頃に有ったスローガンです。いずれにしても「緑豊かな…」は変えたほうがいいでしょう。</p> <p>(2) p5の目標人口37,500人以上を設定するのに、合計特殊出生率を根拠を示さないまま、安易に上昇すると仮定したことは、今、検討中の総合計画（素案）の信用に関わるもので。人口減少対策は結局は出生率の改善にあるわけですから。というのも中野市の出生数の減少は、「市内に小学校2校、中学校は1校、高校は飯山・中野で1校」で十分だとする位のインパクトのある問題です。もっと検討が必要です。</p> <p>＜第3章 まちづくりの方向性＞</p> <p>(1) p6のNew Nakano構想はいいと思います。ただし成長ではなく生長のイメージとしましょう。成長の後には衰退がくる現状をみれば分かります。新たな社会を作っていくという気概を込めて生長です。出生率が向上する社会を作ることに通じます。</p>	<p>○「将来都市像」は、本市が目指すまちづくりの方向性を示す言葉で、言葉 자체は他の自治体においても広く使用されており、変える必要はないと考えております。</p> <p>○審議会での審議をお願いいたします。</p> <p>○本参考資料8～9pでの見解と同様でございます。</p> <p>○一般的な用語である「成長」で統一させていただきたいと考えております。</p>	小林正二

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
	<p>(2) 同じくp 6に基本政策を6件挙げておられます、いずれもあるべき論を網羅的に挙げたものですから、一つ一つの政策は反対もないでしょう。けれども、今は、人口減少の中で財源も制約を受けるわけですから、優先順位をつけ、実現していく必要があります。</p> <p>おそらく、NN 1の「未来のふるさとを担う子供たち…」は出生率の向上もからむ早急に実施すべき課題です。このためには市民の総意を形成する必要があります。対処療法的施策ではダメです。大きな課題ですが、人口減少は都市・地方の区別なく生じていて、国家間の区別もありません。ヨーロッパの産業革命が世界に普及することによって生じた人間社会のグローバルな相転移（人口増加→人口減少）のようなものです。それなりのエネルギーと年数を必要としましょう。</p> <p>そこで、New Nakano のイメージ（生長）を生かして、市民の総意を形成し、中野市らしい先駆的な戦略論を国に提案したらどうでしょうか。ひいては世界にも役立ちます。このことは総合計画の趣旨説明で記しておくべきものです。</p> <p>＜第4章 土地利用構想＞</p> <p>(1) 第2次総合計画や第1回審議会(R7.2.25)で配布された資料4「第3次総合計画(素案草稿)」ではなく、第2回審議会(7/11)用に配布された資料1「第3次総合計画(素案)」で初めて追記されたものです。</p> <p>(2) これまで農業用地については、農業委員会が中心になってやってきました。「人と農地の問題に関するアンケート報告」をベースに、地域の10年先をみた地域の農業のあり方を明確にしていく、つまり、耕作者名を記した農地利用図を3回の各地区座談会を通じてまとめようとされていて、R7年3月に完成したはずです。</p> <p>私には、この座談会は、農地バンクを通じて不耕作地を集約し、農業法人による大規模化を図るものとしか映りませんでした。座談会とはいえ、國の方針ありきで答えは用意されていました。それが、農地利用？でした。日本の未曾有の人口減少を考えると、後継者不在の田畠は数年もしないうちに自然に帰えりますから、今のついに森林組合が採用しているような境界の再現方法を研究しておく必要がありはしないかと思います。</p>	<p>○ご意見として頂戴いたします。具体的な施策につきましては、今後「前期基本計画」の部分で、委員の皆様と共に考えて参ります。</p> <p>○ご意見として頂戴し、担当課へもお伝えいたします。</p>	小林正二
8			

No	意見内容（原文のとおり）	○市の見解 ■基本構想への反映	委員名
8	<p>(3) 私の帰郷 10 年の経験によると、農地を 1 筆毎に整理するよりも“エリア”で管理すべきように思います。例えば、ここは居住区、ここは残すべき田畠エリア、ここは不耕作地してもよい田畠エリア等のように、そこには上下水道や道路等のライフラインも含めましょう。</p> <p>(4) 私は座談会当初から、進め方や農地利用図に疑問をもつていて R6 年 1 月、R6 年 3 月と 2 回、要望書を農業委員会や市に提出しています。第 3 次総合計画（素案）の印象に通じるものがあり、これらの土地利用構想も再考が必要だと感しました。</p> <p>・ 以上、第 3 次総合計画（素案）にコメントしてきましたが、しかば、本書（素案）をどう作り直すかについては、第 3 回の審議会（8/18 予定）が終わってからまとめたいと思います。どう作り直すかの議論については審議会での活発な議論が不可欠です。宜しくお願い致します。</p>	○「中野市まちづくり基本計画」において定めております。	小林正二